

教育サポーター参加者の声

留学生とともに歩む、日本語教育の実践

言語教育情報研究科では、近隣の高校と協定を結び、その高校に短期留学している留学生への日本語教育サポートに取り組んでいます。参加した院生に、その経験について聞きました。



2回生M・Sさんに伺いました



日本語の教育サポーターに応募した理由

私は大学院で日本語教育について学ぶ中で、実際の高校現場で留学生がどのような学校生活を送り、どのような支援を必要としているのかを知りたいと考えました。また、留学生と相談しながら支援内容を柔軟に考えられる点にも魅力を感じました。大学院での学びを生かしながら、現場だからこそ得られる経験を積みたいと思い、応募しました。



印象に残った経験

活動を始めた頃は、サポーターとしてどのように関わるべきか、どんな支援が必要なのかを考えながら試行錯誤を重ねました。日本語の文法や文化を一方的に教えるのではなく、一緒に楽しみながら日本語を使う活動を工夫したことで、少しずつ会話が増えていきました。特に印象に残っているのは、最後に留学生が日本語で将来の夢について語ってくれたことです。また、活動の中で一緒に作成した成果物を高校の先生に褒めてもらい、うれしそうな表情を見せてくれた姿が強く心に残っています。



この活動に興味を持った方へ

「うまく教えられんだろうか」と不安に思う必要はありません。高校生で来日した留学生にとって、自分の話に耳を傾け、寄り添ってくれる存在がいることは大きな安心につながります。相手の「話したい」「学びたい」という気持ちを大切にしながら、一緒に活動をつくっていく時間には、支援する側にも多くの発見と学びがあります。ぜひ気軽な気持ちで一步踏み出してみてください。

寄り添うことから始まる日本語教育の力を 実感しました

試行錯誤を重ね、文法や文化を「教える」のではなく、
「一緒に楽しむ」ように活動を工夫。